

ALL KAGAMI

かがみづくり

2024年3月20日発行

鏡地域連携協議会

No.70

鏡地域の人口

(令和6年3月1日現在)

546世帯

総人口1,115人

男523人・女592人

おかげさまで、No.70の発行となりました。見ていただいてありがとうございます。

2月28日（水）鏡地域連携協議会第3回定例会が開かれました。情報共有の後、『これから何をしようか？』というテーマでワークショップを行いました。4つのグループに分かれ、「やれる」「やれない」に囚われず、鏡地域で「これをやりたい」を自由に付箋に書き、考えを出し合いました。

定例会に先だって行われた世話人会では「出んかったらどうしよう」「行政への要望ばかりになるのでは？」と心配をしていました。

しかし、模造紙に貼られた付箋は全部で82枚！書かれた内容は、お祭り・運動会などの行事、子どもに関する事、文化・伝統、防災など。どれも前向きで、これからの鏡地域を盛り立てていこうというものがほとんどでした。付箋を見ての意見交換も行い、これからの活動の方向性が見えた会となりました。

これらを元に2024年度の事業計画を練っていきます。

鏡地域連携協議会 定例会



高知市消防団 鏡分団

春の火災予防運動期間中に合同訓練を実施しました。

3月8日（金）に鏡ダム湖周辺において、高知県消防防災ヘリコプター（以下防災ヘリ）と消防局、消防団による山林火災を想定した合同訓練を実施しました。

訓練内容は、消防水利の確保が難しい火災現場を想定して、鏡ダムの水を使って放水するため、防災ヘリで小型ポンプを火災現場付近まで搬送し、消防局と消防団が連携して放水を行いました。

今後も各消防機関と連携した消火活動ができるように訓練してまいりますので地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

令和6年3月8日

高知市消防団鏡分団長 佐々木恵一



↑ 消防防災ヘリコプターからの搬送の様子



↑ ポンプを使って送水する様子



↑ 消火放水訓練様子

資源物・不燃ごみ
4月の収集日

8日（月）



ルールとマナーを守って出しましょう！

*1月13日に行われた防災参観日の鏡中学校からの情報発信です。今回が最終回です。

鏡中学校 防災参観日③

南海トラフ大地震に限らず、避難所生活で懸念されることは、避難生活等による身体的負担による疾病で亡くなる災害関連死です。

四つ目の取り組みとして、『日頃から家庭でできるセルフケア・ストレッチ～避難所生活でのエコノミー症候群を予防するために～』と題して、避難所での不自由な生活の中における、体のケアについて講話を行いました。

講師として、カイロプラクターの武田秀将さん、小谷志麻子さんをお招きしました。お二人からは、カイロプラクティックの観点から、体の歪みからくる肩こりや腰痛、その他の身体の不調についてお話をしていただきました。そして、体の歪みを実際に知ってもらうために、本校の高岸教諭をモデルにして、骨盤のズレからくる体の歪みを実際に見てもらいました。また、家庭でもできるセルフチェックを教えていただき、日頃の姿勢と体調との関連について学ぶことができました。



しかし、避難所にいるみんなが被災者であることを思っつらいことを我慢したり、プライバシーが保たれないために自家用車に避難をしているうちに、体調を崩したりすることがあります。小谷さんは、「災害関連死を防ぐ最大の予防は、コミュニケーションをとることが何より大切です」とおっしゃっていました。

今回の防災参観日では、防災植物、心肺蘇生法、かまどベンチを使用した炊き出し、避難所生活を想定し、体のセルフチェックについて取り組みました。

1日の日程としてはかなり中身の濃いものとなりました。しかし、心肺蘇生法の講習をしていただいた、旭消防署の方からは、「よく系統立てられていて、素晴らしい取り組みでした」と評価をいただきました。

今回の取り組みが、もしもの時に生かされるように、また、鏡地域からは一人も犠牲者を出さないためにも、今後も引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

地域おこし協力隊

農業用水路の掃除



柿ノ又地区で水田に水を引き入れるためのU字溝を浚渫しました。増水時による土砂で塞がっていた取水口周辺では、人の頭部ほどの岩がごろごろしておりました。時には手作業で排除せねばならず、水路管理の苦勞を垣間見た気がします。

●用語の説明

*U字溝 道路脇などに設ける、成型したコンクリートを連ねた側溝。断面がUの字の形から言う。

*浚渫 「しゅんせつ」と読む。水底をさらって土砂や岩石などを取り除くこと。

